

## 世界のひとふれあいタイム



### 「ドイツの話」

実施日：平成 25 年 9 月 22 日



今回のスピーカー、ゼベリング伸一さんはデュッセルドルフ出身の留学生です。現在ドイツ在住のお母さんが日本人で、お父さんはドイツ人です。ゼベリングさんは若者らしく、プレゼンテーションを全てビジュアルで説明されました。

タイトルは「ぶらり途中下車、ドイツの旅」です。「2週間ぐらいの旅になると思っていますのでどうぞ楽しんでください」と切り出し、まず、成田空港から、フランクフルト直行便で出発です。

ドイツはヨーロッパの中心に位置し、9カ国に囲まれた、自然が豊かな国です。日本との違いについて、ドイツ人は「人前で鼻をかむ」、「雨の日に基本的に傘はささない」、「日曜、祝日は絶対に休み」。それから「お店ではビニール袋は有料」です。



↑ ゼベリングさん  
一笑いの渦にひきこまれた会場の様子

そろそろ、11時間の飛行から、フランクフルト空港へ到着です。電車に乗り替え、ライン川へ向かいます。電車に乗り遅れそうになった場合は、乗車後、車内で、チケットを買うことができます。

川下り観光では、美しい歌声に魅惑され、舟が渦の中にしずんでしまったという伝説のローレライの像のある岩が見えます。

初めの町はボン、ベートヴェン・ホールが有名です。そこで、質問：「ボンから世界に広まったお菓子は何でしょう？」

それはハリボーです。ゴールドベアの形のグミで、ちなみに、ゼベリングさんは白が好きだそうです。



ケルンに続いて、詩人ハインリヒ・ハイネの出身のデュッセルドルフに着きます。日本デー（ヤーパターク）は町中が日本一色になり、日本の打上げ花火は世界一と絶賛されています。祭り、グルメについて、話はずきません。カーニバル、オクトーバーフェスト、ビール祭り、ファストフードのルーツがドイツにあり、絶妙に美味しい、燻製豚肉のドネ

ルケバブのことを熱く語り、ドイツビールは本場で飲むのが美味しいとのことでした。

ドイツの北に位置する、港町ハンブルグから、東西ドイツを分断した壁の残るベルリンへ移動し、強豪サッカーチームのバイエルン・ミュンヘンの本拠地、ミュンヘンまでの旅は、ぴったり予定時間内に納まり、日本に戻りました。

Q&A で、ドイツで青年がゴミを拾ったり、お年寄りに手を貸したりすることがごく自然なのは、教育ですか？との質問に、「学校で教わったのではなく、自分の町だからきれいにしたい気持ちは普通です」

ただ乗りの罰金について、車掌にチェックされないこともあるが、見つかったら 40 ユーロ罰金です。エコの問題について、ペットボトルには 15 円かかり、リユースするが、缶は販売されていません。また、通勤に、自転車や路面電車（シュトラーセンバーン）を利用します。

ドイツで就労経験された方からは、「日本人の働き方をドイツではどのように見えるのか？」の問いに、ドイツでは、日曜日は家族で過ごす事が当たり前で、残業はしない。「日本のサラリーマンは大変だなあとと思う」との返答でした。

消費税についての質問に生活に、必要な薬と食料は 7%、その他は 19%だが、文句はでないとのことでした。

アンケート結果では、今回の話は大変良いとの回答がほとんどで、ドイツへ旅行したくなったとの意見もありました。

### …ドイツ鉄道にしかないものは何？…

ドイツ鉄道はドイツチェバーンといいます。そこにはひとつ特徴があります。それは何だと思いませんか？  
答え：「遅延です」 電車は、20分遅れたり、待っても来なかったりします。日本に来て、JRの定刻どおりの発着に本当に感動したそうです。さらに、「申し訳ございません。4分遅れて到着します」と駅のアナウンスに、「全然いいよ」と思わず答えたとのエピソードを話され、会場は笑いで盛り上がりました。（参考：日本との違いは整列乗車、発車案内がないことです。）



※次回は 11 月 10 日の国際交流フェスティバル 2013 での特別企画  
「過去の 50 カ国の思い出」です。  
ぜひご参加ください。

世界のひとふれあいタイム委員長 生山 龍哉